

参考文献の書き方

1. 引用文献と参考文献

引用文献とは、論文中に引用している文献を指します。また、参考文献はその論文を作成するために参考とした文献のことです。もちろんこの中には、参照はしたが、本文中では直接引用はしなかった文献も含まれています。そして、論文の最後や欄外に「参考文献リスト」として、必ず記載されていなければなりません。実際の書き方には一定の決まりがあります。また、文献のなかで記載されている参考文献リストを手がかりとして、関連文献を見つけていくのも有効な文献探索法の一つといえます。

2. 参考文献の書き方

参考文献の表示には資料形態により必須事項とルールがあります。ただし、記述のルールはいろいろありますので、p. 14～15のレポート・論文作成方法の図書なども参考にしてください。下記の①から⑥の必須事項は資料を説明する事柄です。

● 図書資料の場合

①著者（编者、団体名）②書名 ③版表示 ④出版社 ⑤出版年 ⑥総ページ数

斉藤 孝^① 『学術論文の技法』^② 第2版^③ 日本エディタースクール出版部^④ 1998^⑤
250p^⑥

和書の場合、書名を『』に入れます。洋書の場合は、書名はイタリック体で、著者名を姓・名の順で表示します。

● 雑誌論文・記事の場合

雑誌の論文・記事は、雑誌や紀要などに掲載されています。

①執筆者 ②発行年月日 ③論文・記事名 ④掲載雑誌 ⑤巻号 ⑥掲載ページ

LePine, J.A., & Ven Dyne, L. ^① (1998) ^②, *Predicting voice behavior in work groups* ^③, *Journal of Applied Psychology* ^④, *83* ^⑤, 853-868 ^⑥

執筆者名は、姓・名の順で表示します。外国人の場合は、姓のあとに“,”を付け、スペースを半角1文字あけて、名を表示します。発行年（論文の発表年）は名前の後ろに続けて表示しますが、⑤の巻号の後ろに表示される場合もあります。外国語の論文は、掲載雑誌がイタリック体で表示される場合が多く、雑誌名を略称で記述することもあります。

略称の例

Journal of Applied Psychology の場合

→ Jou. Appl. psych.

→ J. Appl. Psych.

→ J. Appl. Psychol.

<参考文献・引用文献の例>

■ 文 献

- 浅田彰, 1984, 『逃走論』筑摩書房→1986, 『逃走論』ちくま文庫
- Bell, D., 1960a, *The End of Ideology: on the Exhaustion of Political Ideas in the Fifties*, Free Press.
- , 1960b, *The Winding Passage: Essays and Sociological Journeys 1960-1980*, Abt books.
- =1990, 正慶孝訳, 『二十世紀文化の散歩道』ダイヤモンド社
- , 1976, *The Cultural Contradictions of Capitalism*, Basic Books. =1976, 林雄二郎訳, 『資本主義の文化的矛盾 上』講談社学術文庫, ビートたけし, 1998, 『新潮 45 別冊コマネチ』2月→1996, 『コマネチ』新潮文庫
- , 1999, 『真説「たけし」——オレの毒ガス半生記』講談社+α文庫
- Blumer, H., 1951, “Collective Behavior”, Lee, A. M. ed., *New Outline of the Principle of Sociology*, Barnes & Noble.
- , 1969, *Symbolic Interactionism: Perspective and Method*, Univ. of California Press. =1991, 後藤将之訳, 『シンボリック相互作用論』勁草書房
- Burke, K., 1941, *A Grammar of Motives*, Univ. of California Press. = 1982, 森常治訳, 『動機の文法』晶文社
- Calhoun, D., 1946, “Non-Violence and Revolution”, *Politics*, Jan.
- Clecak, P., 1973, *Radical Paradoxes, Dilemmas of the American Left, 1945-1970*, Harper & Row.

(伊奈正人：『サブカルチャーの社会学』世界思想社 1999 より)

引用文献

- 安藤直樹・斉藤和志・藤田達雄・北折充隆・吉田俊和 1998 社会的迷惑に関する研究 (1) —認知された迷惑度の分析— 日本グループ・ダイナミクス学会第46回大会発表論文集, 236-237.
- Axelrod, R., 1984 *The evolution of cooperation*. Basic Books.
- Berscheid, E. & Reis, H. T. 1998 Attraction and close relationships. In D. T. Gilbert, S. T. Fiske, & G. Lindzey (Eds.), *The handbook of social psychology* (4th ed.), Vol. II, Pp. 193-281.
- Deutsch, M. 1982 Interdependence and psychological orientation. In V. J. Derlega, & J. Grzelak (Eds.) *Cooperation and helping behavior: Theories and research*. Academic Press. Pp. 15-42.
- 橋本 剛 1997 大学生における対人ストレスイベント分類の試み 社会心理学研究, 13, 64-75.
- 林 春男・黒川 正流 1990 親子関係における相互依存構造の分析 I, II 日本グループ・ダイナミクス学会第38回大会発表論文集, 99-102.
- 広瀬幸雄(編) 1997 シミュレーション世界の社会心理学——ゲームで解く葛藤と共存—— ナカニシヤ出版

(吉田俊和：『社会心理学』ナカニシヤ出版 1999 より)